

地域公共バス「池 07 系統」運行支援事業について

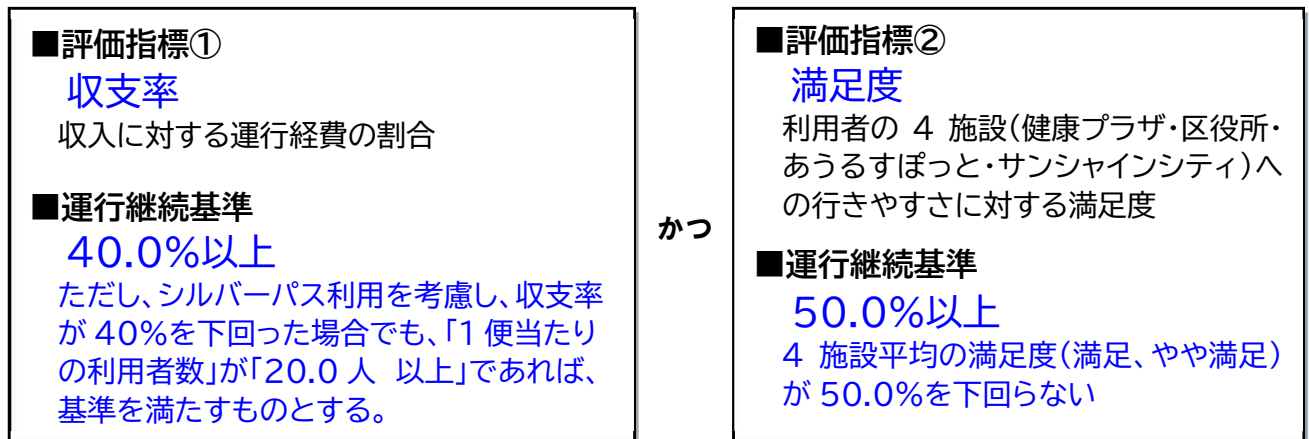
1. 事業概要

平成 23 年 3 月から江古田二又と池袋駅西口間を結ぶ「池 07 系統」を、区民の利便性の向上のため、池袋駅東口のサンシャインシティ方面まで延伸し、区は、社会実験として運行支援事業を開始した。社会実験では、乗車状況や利用者の意識調査から事業評価を行い、平成 28 年度に公共交通会議による運行継続の承認を受け、現在、区の地域公共バス運行支援事業補助金交付要綱に基づき継続運行している。

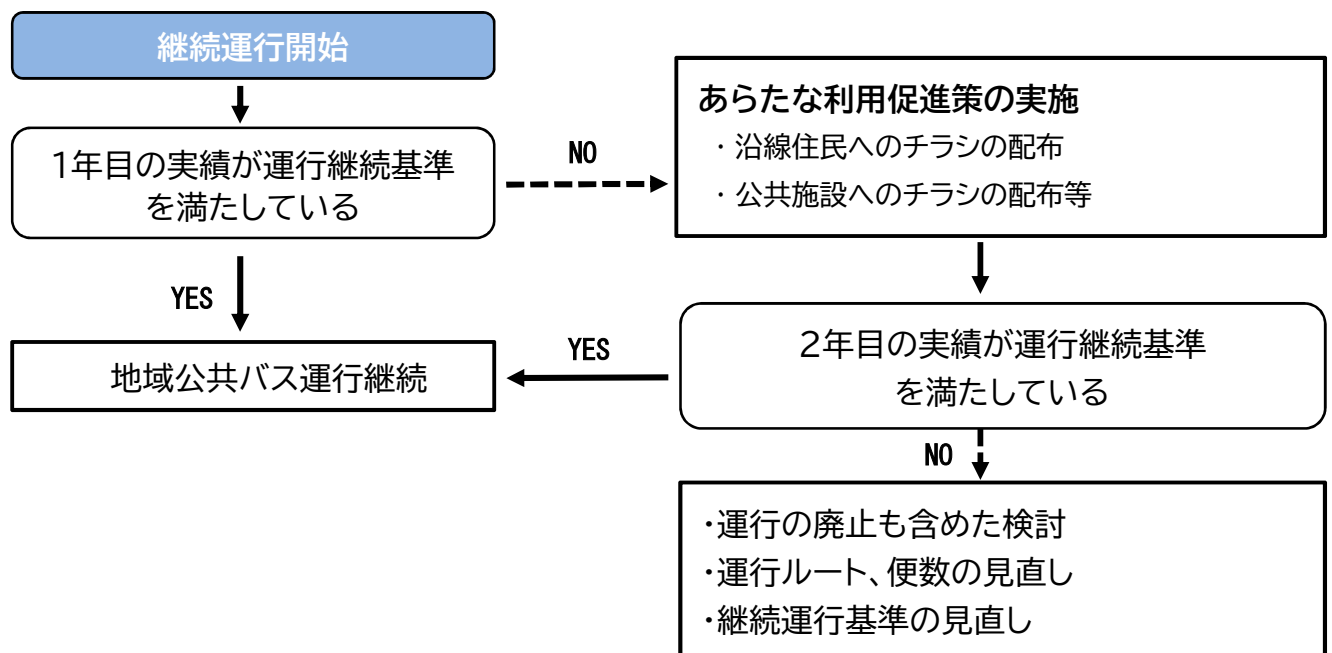
2. 運行評価について

本系統の継続運行については、平成 28 年度に開催した本会議において、過度な財政負担を避けるため、評価検証のモニタリングを引続き行い、2 年連続して運行継続基準を満たしていない場合、運行継続フローのとおりに廃止を含めた検討を行うとしている。

(1) 運行継続基準



(2) 運行継続フロー



3. 評価に伴う調査について

評価検証を行うためのデータ作成を目的とし、「一週間全便乗降客数調査」及び「満足度調査」を委託にて実施。

(1) 一週間全便乗降客数調査

利用者の実態を把握するため、「一般」「シルバーパス利用者」「子ども」に分類した 1 週間全便の乗降者数の調査を実施。

① 調査方法

車内にて期間中全便の停留所ごとの乗降客数を確認

② 調査期間

令和 6 年 10 月 22 日(火)～10 月 28 日(月)

③ 調査便数

112 便(8 便×往復×7 日間)

(2) 満足度調査

利用者の属性や外出状況、本路線に対する満足度等を把握するためのアンケート調査を車内にて実施。

① 調査方法

車内での対面アンケート

調査期間

令和 6 年 10 月 27 日(日)、10 月 28 日(月)

② 調査便数

東行き(江古田二又発→サンシャインシティ南行) 16 便(8 便×往復×2 日)

西行き(サンシャインシティ南発→江古田二又行) 16 便(8 便×往復×2 日)

※ 上記評価指標以外の調査結果等については資料 1-2 を参照

4. 評価結果について

(1) 評価指標①【収支率】 **45.7%**(令和5年度決算額)

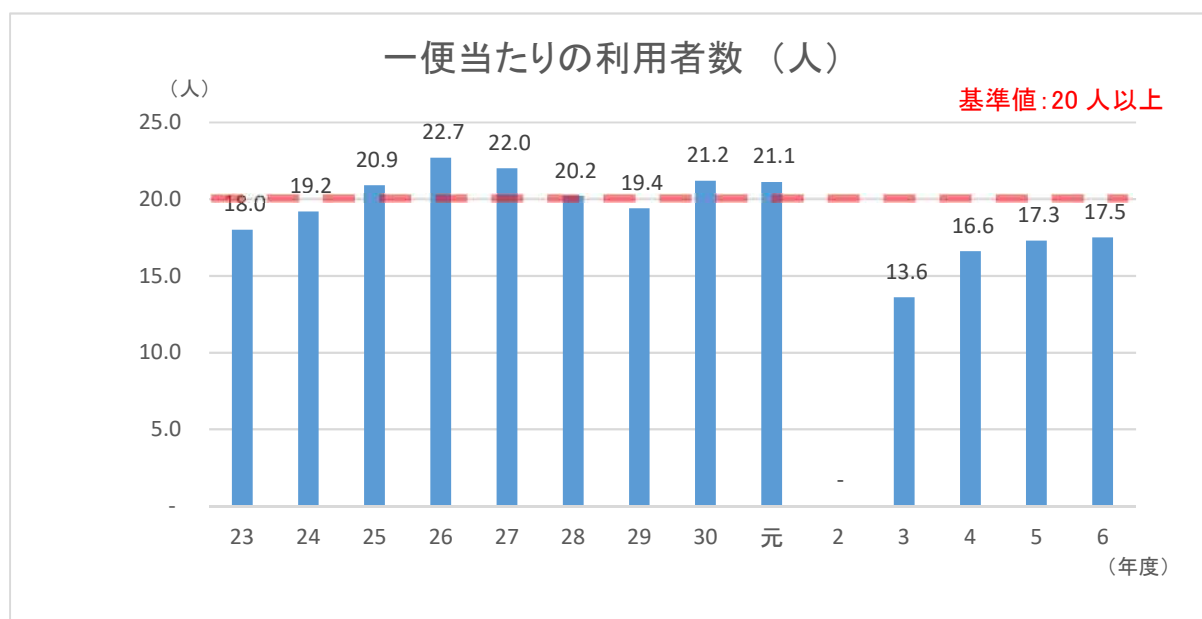
収支率の推移(平成23年度～令和6年度)

年度	収入(千円) ① ・現金 ・ICカード ・シルバーパス等	支出(千円) ② 運行経費 その他支出 (工事費等)を除く	その他支出③ (千円) ・工事費 ・車両償却費 ・ラッピング費用等	収支率(%) 収入/支出② =①/②	区補助金 (千円) (②+③) -①	年間乗車人数 (人) ※一週間全便 調査による推計 値	利用者一人当りの 区補助額 (円/人) 区補助金/年間 乗車利用人数
23	11,013	27,138	7,741	40.6	23,866	104,780	228
24	10,868	26,877	11,274	40.4	27,283	111,592	244
25	11,455	27,164	5,395	42.2	21,104	121,472	174
26	11,768	27,637	6,634	42.6	22,503	132,028	170
27	12,505	31,123	14,689	40.2	33,307	128,128	260
28	11,111	27,061	648	41.1	16,597	117,520	141
29	11,363	27,306	644	41.6	16,587	113,048	147
30	11,777	27,768	1,154	42.4	17,145	123,396	139
元	11,982	29,427	1,966	40.7	19,410	122,680	158
2	10,557	27,998	3,575	37.7	21,016	調査未実施	不明
3	11,296	28,337	2,366	39.9	19,407	79,465	244
4	11,962	28,605	1,663	41.8	18,307	97,194	188
5	13,371	29,244	1,371	45.7	17,245	100,880	171
6	(13,683)	(40,122)	(1,861)	(34.1)		101,157	

※()は1月末までの実績を元に算出した見込み額

(2) 評価指標①【1便当たりの利用者数】 **17.5人**

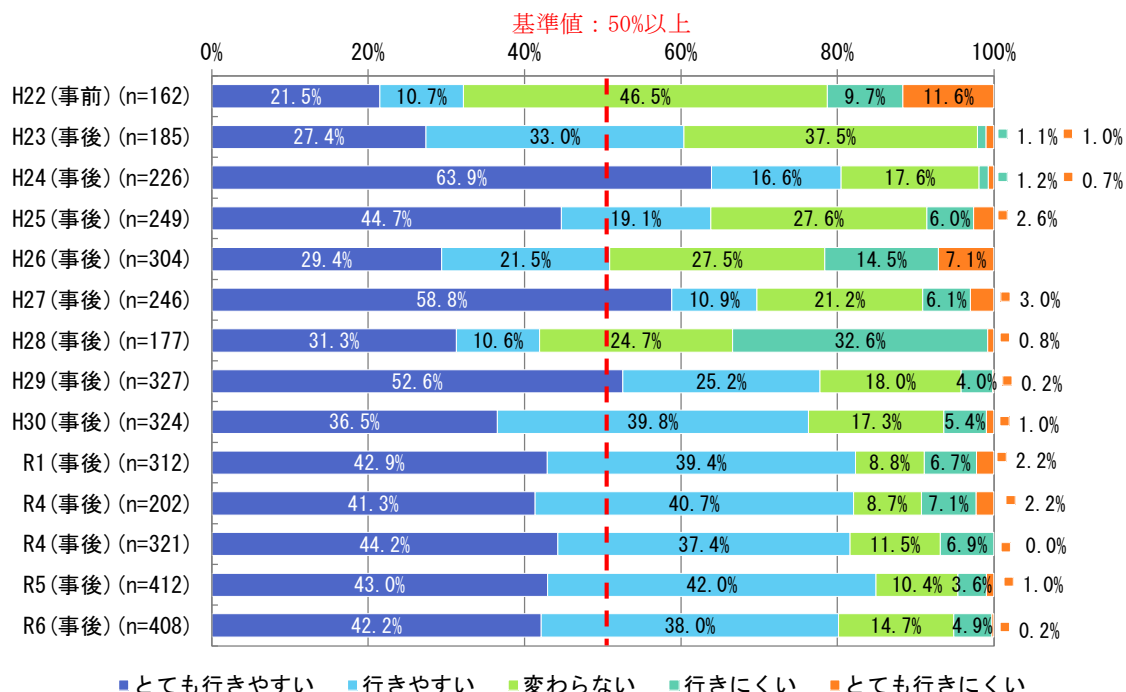
利用者の推移(平成23年度～令和6年度)



(3) 評価指標②【満足度】: **80.2%** (「とても行きやすい」「行きやすい」の計)

東池袋方面の公共施設や商業観光施設(健康プラザ・豊島区役所・あうるすぽっと・サンシャインシティ)への行きやすさに対する利用者の満足度

【4 施設への行きやすさの平均値】



5. 結論

	評価指標①		評価指標②
	収支率	1 便当たりの利用者数 (収支率 40%未満)	満足度
運行継続基準	40.0%以上	20 人以上	50.0%以上
令和 5 年度評価	41.8%(R4 年度収支)	17.3 人	88.0%
令和 6 年度評価	45.7%(R5 年度収支)	17.5 人	80.2%

評価指標①の収支率については、運行継続基準を上回りコロナ前の水準に戻り、評価指標②の満足度においても8割超の高い水準で推移していることから、本事業を継続したい。

しかし、R6 年度収支では、乗務員の人件費の高騰により収支率が運行継続基準を下回ることが予想され、それ以降についても上回る要素が無い状況である。本路線は高齢者の利用も多く、区の東西を結ぶ重要な公共交通であることから、来年度以降も更なる収支改善に向けて、これまで行ってきた区有施設へのチラシの配架については引続き実施することとする。

また、来年度から着手する地域公共交通計画の検討にあわせ、本指標についても本会議での検討を進めたい。